

博士學位論文審査結果の要旨

学位申請者氏名	中村 孝之		
論文題目	住宅産業におけるインテリアマネジメントに関する研究		
論文審査担当者	主査	片山 勢津子	㊞
	審査委員	八木 幸二	㊞
	審査委員	斎藤 英俊	㊞

日本のインテリア産業は住宅産業とともに発達して、現在に至る。住宅産業は、第二次世界大戦後に誕生した日本固有の業態だが、その着工件数は全体の過半数を占めるまでに発達した。本研究は、ストック社会となったこれからの住まいを考えるために、スケルトンとインフィルが分離し、新築事業に依存しているインテリア産業が、現状から脱却する必要があるという観点から、インテリア産業の変遷過程を整理し、マネジメントの特徴と課題を分析し、インフィル技術の開発と実証実験を踏まえて、住宅インテリアがインフィル事業となるための方向性を示したものである。

筆者はまず、住宅産業とともに発達してきたインテリア産業の特徴を明確にするために、社会動向を反映した着工戸数の推移と住宅制度政策の特徴を捉えて 1945 年から現在までを 4 区分して住宅市場の変化を捉え、さらにプランニング、インテリアコーディネート、製品開発についての変遷過程を明確化した。インテリアデザインは社会動向の影響を強く受けるが、これまで体系的に捉えられたことはなく、詳細な資料から検討を加えて整理した点は、高く評価できる。

筆者は次に、マネジメントの観点から住宅インテリアを、研究、商品、事業の 3 段階に分けて、時代の特徴を整理している。さらに、時代ごとのマネジメントの影響について、経済産業省（旧通商産業省）の調査結果から生活者評価の変化を捉えている。

そして建材から商品、性能、生活デザインへと、これまでのインテリアマネジメントの変化の状況を具体的に示した。マネジメントの視点で住宅インテリアの変遷状況を捉えたことで、関連産業への影響が明確となり、的確な考察を行っていると言えよう。

建物の耐用年数を伸ばす方策としてスケルトン&インフィルの概念が構築されているものの、その方策が住宅において普及していないのが実情である。筆者はこの問題を捉えるために、住宅の長期耐用性に関する調査を行い、住宅の価値判断の主体が専門家ではなく所有者や利用者に委ねられている現状を明らかにし、スケルトン&インフィルとして価値判断の主体を分離する必要性を示した。さらに技術的裏付けをとして、複数のモデル開発とその検証によって2日で施工が可能であることを示し、個別対応だけでなく、建物や街の活性化に繋げられることを示した。こうした技術の実用化には、インフィルを差し替えるマネジメントの視点が必要であり、インテリアマネジメントとして、サービスデザインの構築、バリューチェーンのプロデュース、タイムリーに更新する体制の構築など、具体化への概念を明確化した。このように技術的実証実験を行ったこと、マネジメントの要件を示したことは、インフィル事業の実用に向けて、大変意義深いと考える。

以上のように、マネジメントの視点から住宅産業におけるインテリアを捉え、技術的検証を踏まえた上で、サステイナブル時代の住宅インテリアの方策を示したことは、インテリア産業のみならず建築や関連業界に対して新たな知見となり、スケルトン&インフィル住宅の普及への端緒を開いたと言える。よって、審査員一同は本論文が京都女子大学大学院家政学研究科博士（学術）の学位論文として十分に価値あるものと認める。